

10月 町民読書月間メッセージ 矢祭町民の皆様へ

本を探すことはまるで宝探しのようです。

本の中には自分を成長させ感動を与えてくれる物語や体験、
美しい絵やデザイン、素晴らしい言葉の数々が詰まっています。
そして全ての本が、作家達が誰かの心に届くよう、願いと魂を込めて書かれています。
もったいない図書館さんに入りまわりを見渡すと、そんな本たちがずらりと並び、
「今日はどの本にしようか」「次はこれを読もうか」と
来た人は好きなものを選ぶことができます。

本のプロである司書の皆さんのおすすめや季節の本もあり、
何を读もうか迷っている人も訪れる度に素敵な発見があるはずです。
本と人との出会いが無限にある、なんて豊かな空間なのでしょう。

『本は心の栄養』という言葉、これは子どもだけのものではなく、
大人にとっても大切な心の栄養だと思っています。
大人はもう体は大きくなりませんが、心はいつまでも豊かに大きく成長していきます。

そして子どもたちが読む絵本は、親にとっても心の栄養です。
絵本を通して親子で共有する幸せなひととき。読み聞かせに目を輝かせる子どもの姿。
よりそって絵本を楽しむ温かい時間から、私自身も子育ての大変さを上回る喜びをもらっています。
子どものためにと読んだ絵本に、心を揺さぶられたり、満たされるような感覚を味わったり。
「ああ生きていて良かった。もっともっと生きて、この本を深く味わいたい」と思えるのです。

小さな子ども達も大人の皆さんも、ぜひ様々な本をひらいて、旅に出て、
今の自分に響く言葉や絵にたくさん出会ってみてくださいね。
そして読んだ本を自分の心にしまっておくのも良いですが、
まわりの人に感想を話すことで新たな発見があるかもしれません。
「家読マラソン」を通して本の輪を広げていきましょう。
皆さん一人一人の宝物の本との出会いが、これからもたくさんありますように。

令和6年10月
絵本作家 かと一ゆーこ

